

幽玄

題字 高秀秀信

横浜能楽連盟

会報 No.63

令和4年3月31日

明けない夜はない

会長 馬場 洋一



会員の皆様、ご健康に生活されていることと存じます。

また残念なご報告をせねばなりません。3月12日に予定していた「第25回五流交流のつどい」は、断腸の思いで中止いたしました。「中止」とご報告するのは何回目でしょうか。

思い起こすと、当能楽連盟の二つの主催大会は、令和になって一度も予定通り開催されていないのです。まず、元年10月12日に予定していた「第35回横浜五流能楽大会」は、台風19号の関東直撃に遭い一度は中止にしましたが、11月16日に延期して開催できました。横浜能楽堂の

ご厚意で、当年中で唯一空いていた本舞台を使わせていただいたという、僥倖によるものでした。

その翌年からは、新型コロナウイルス感染症の拡大により、5回連続で中止の憂き目に遭うことになりました。日本で新型コロナウイルスが確認されてから、2年以上が経つてしまいました。その間に、オリンピック・パラリンピックが東京、北京と2回開催されました。長いのです。今までしたことのない経験を我々はしています。

しかし5回目の中止は、これまでとは様相が異なりました。昨年10月から12月にかけて第5波は沈静化し、新規感染者が1日1000人を下回る日もあって、久しぶりの開催への期待が大きく膨らんでいたのです。自粛していたお稽古を再開した方も多かったのではないでしょう

か。そのまま推移すれば、3月には感染対策はするものの開催できるはずでした。しかし、年が明けると状況が一変し、海外で急激に広がり始めた変異株オミクロンが国内でも確認され、猛烈な勢いで新規感染者数が増加して、1か月で10万人を超えることになりました。

その状況では実施の可否を改めて検討せざるを得ず、1月下旬にメールによって理事会に諮りました。提案のメールを出してから、全国では毎日1万人ずつ感染者が増加している時期でした。

「うちの流派の会はマスク着用で実施したが……」「稽古を中止したので参加できない」「第6波は海外の例を見ると急激に沈静化すると聞いている。判断はもっと先にしないか……」など口惜しさと戸惑いに満ちたご意見をいろいろいただきましたが、その後の評決においては全会一致で「中止」との結果になりました。やはり、連盟主催の大会はそれだけ大きく大事なもののなのでしょう。

この先、第6波が収まってまた新たな変異株が出てくるのでしょうか。ワクチンの3回目接種が進めば安心できるのでしょうか。治療薬が開発されないと安心できないのでしょうか。

か。新型コロナに関する医療がインフルエンザの対処レベルにならなければ安心できないのでしょうか。いずれにしろ我々素人が今できることは、ワクチンを接種し、マスクを着用し、うがいと手洗い、日々予防に努めることしかありません。

大会という目標がないとお稽古のモチベーションが上がらないというのが、人間の弱さかもしれない。何の心配もなく開催できることが理想ですが、感染拡大が少しでも沈静化し、感染対策を講じることで安心・安全に開催できるならば「開催する」という志は忘れずにいたいものです。

夏までにコロナ感染症が沈静化することを祈り、皆様と再び同じ舞台に立てることを夢に、健康な生活を送りましょう。

☆お知らせ☆

◎「第38回横浜五流能楽大会」

令和4年10月8日(土) 開催予定

会場 横浜能楽堂本舞台/入場無料

五流各団体により、素謡・仕舞などが演じられます
各流派が同一曲を演じる五流競演もあります

入会のご案内

横浜能楽連盟では、常時会員を募集しております。会員の方で、同門・同社中にまだ入会されていない方がおられましたら、ぜひ入会をお勧めください。個人でも団体でも受け付けております。入会希望の方は、ホームページまたは事務局へご連絡ください。

ブラジルの少女、

能舞台に立つ

観世流 齊藤 三紀

こんなコロナ禍が来るとは思ってもみなかった2019年。近くに住む高校2年生の孫娘は、ロータリークラブの交換留学生としてブラジルに行きました。

そして、ブラジルからも女子高校生が、やってきました。1年間の滞在ですが、3家庭にステイするので、孫の家に住んだのは最後の4か月でした。

日本語もだいぶ上手になっていて、着物や日本文化に興味を持っているのので、「仕舞を習いませんか？」と言ってみたら、



「習いたいです!」と。

私は2013年に白謡会に入会し、謡のご指導を受けていたもので、先生にご相談しましたら、快く引き受けてくださり、稽古が始まりました。

友人との日本語での会話はずいぶん上手になっていましたが仕舞となると、やはり微妙な情景の説明だったりするとわからない。でも先生は、お得意の英語も駆使して、とても丁寧に指導くださいました。が、なにしる高校生は忙しい。結局お稽古は直接指導と自主練習あわせて10回位。それでも先生は、「5月の発表会に出ましよう」と。はてさて大丈夫かな?

さて、発表会当日。曲は「羽衣キリ」。桜色の無地の着物に緋色の袴、きれいな扇も貸していただきました。先生のお孫さんも凛々しい紋付袴姿で「鶴亀」を舞うことに。彼も部活で忙しく、稽古の時間もあまりとれなかったのに、まあ二人とも堂々と見事に舞いました。

当日は、前のホストファミリーやロータリークラブの方々などが見に来てくださり、とても喜んでくださいました。でもやはり、なんといつてもその日のうちに動画を観た、ブラジルのご両親の喜びよう! ブラジルでは、日系人のお祭りで日本

舞踊みたいな踊りが人気だそうで、そこに「羽衣」も仲間入りするような!

この翌年からコロナが始まって、留学生の交流はなくなり、再び世界各地から留学生が来られるようになって、このような機会がまたあることを、心から願っています。

鳥と私の能の稽古

喜多流 沼館 祥子

8月は暦の上では秋だが、その終りのまだ暑さの残るある夜のことで、私が習っている先生のテープをかけて「夕顔」をさらっている、突然、ベランダの庇の上でかん高い声で鳥が鳴き始めた。2〜3日前からこの辺で鳥の気配を感じてはいたが、不思議なのは夜半に鳥の鳴き声が響いたことであつた。夜目の効かない鳥なら眠っている頃合いである。その鳴き方も様々なバリエーションで、知る限りのメロディーを駆使している様子である。聞きほれていたが、後にも先にもこのようなことはなく、一瞬の僥倖であつた。鳥の声がしなくなったので再び「夕顔」の稽古に戻ったが、あれは何だったんだろうと茫然とする

ばかりであつた。

後日、謡の先生にこの夜の一件について話をしたところ、そのまた先生である喜多實師は、ご自宅にカナリアと犬を飼っていて、師が謡うとカナリアは競うように一番の美しい声で歌い上げるのだという。犬だつて黙ってはいない。抑揚をつけてあたかも謡っているかのごとくに吠えるのだという。

鳥類は一般に鳴き声を学習しながら成長していくという。鳥のオスがどんなときに鳴くのかを調べてみると、縄張りをアピールして他の鳥の侵入や乗っ取りを防ぐ縄張り歌、ライバルに対する攻撃的動機づけを誇示する攻撃歌、メスを誘う求愛歌など、いくつかのパターンがあるというが、そこに至るまでは私達の謡同様、鳥も先生について努力を重ねているに違いないのだ。これらはすべて、オスのメスへのラブコール、つまり種の保存が目的なのである。だから切実感が違う。

オスはとにかくさえずりの声や抑揚や間が良くないとメスとの繁殖に遅れをとってしまうのだから、皆必死である。新たなバージョンやレパートリーをふやすべく、同種の鳥だけでなく、時には人間の声であっても挑戦しないわけにはいくまい。ちな

みに猫はニヤニヤなど人間と一緒に鳴くことはないが、演奏など聞いて理解することはあるらしい。

ところで、庇の上にいた鳥だが、次の日近くで見たら、大きな色からヒヨドリではないかと思う。私の先生から私よりも先にこの上ない良い声の歌い方を学んだ鳥は、その後の縄張り争いやメスへのアプローチに有利に事を運んだに違いない。良き師を持つということは、鳥や動物にとっても幸せというものである。

私も、出雲康雅先生という良師に恵まれたのだから、努力してもう少し上手になりたいものである。

「囃子堂」公演を観て

宝生流 中川 愛子

令和3年の12月21日、東京水道橋の宝生能楽堂において「囃子堂」東京公演が催されました。これは京都能楽囃子方である同明会主催の「能楽囃子を音楽として聴く」ことを主眼とした演奏会です。同明会は京都在住の能楽囃子方の団体で、大正6年に発足し、囃子方の正しい伝承と技芸の向上のために日夜研鑽を積んでいるとのこと。公

演は主に京都で開催されており、東京公演は初めてとのことでした。

演目は、宝生流の舞囃子「歌占」(シテ辰巳満次郎)をはじめ、観世流・金剛流の参加で舞囃子・素囃子・一調が8番演じられました。小書が3番含まれているのも特出されます。どれも見てたえのある演目ばかりでした。

また、宝生・観世・金剛の職分と囃子方の「クロストーク」も、興味深く拝聴しました。舞台で重きを置くのは、金剛では囃子方が優先するが、宝生では地謡が優先され、宝生流・武田孝史師の話では「謡の生み字をしつかりと謡うので、ゴツゴツと聞こえるかもしれません」とのことでした。

★能楽三知識★

「囃子」について

能楽堂で能が始まる時、幕の内からまず登場して、舞台正面後方にずらりと並ぶのが、「囃子方」と呼ばれる人達です。笛・小鼓・大鼓・太鼓の4つの楽器を持ち、能の謡や舞の伴奏をします(太鼓は曲によっては登場しないこともあります)。この4つの楽器に謡(扇を持つ)を加えたのが、雛人形の「五人

宝生流「歌占」は、頓死して

蘇生した男巫のクセ舞が、嫺々たる笛の音と共に、舞台に深く霧が流れているのかと錯覚するほどに神秘的で、迫真の舞台でした。また観世流の「三輪」は白式神神楽とのことで、神の徳をいや増しに高めるようで、ご神体の三輪山の雄大な山容まで迫るように感じました。金剛流の「船弁慶」白波之伝では、黒紋付の狂言方の演じる船頭達が荒波の中で必死に船を操る様子に凛然としました。子方の義経も、凛とした姿に英雄の面影を映すごとくで、子供は未来を背負うからこそ強いのではないかと思えました。さらに一調の「鳥追」では、十余年の日暮殿の不在に主人の妻子に鳥を追わせる

囃子」になるのです。

この4つの楽器には、能のシテ方や狂言方とは別に、楽器ごとの流派があります。

- 笛……一噌流・森田流など
- 小鼓……幸流・幸清流など
- 大鼓(おおかわ)……葛野流・大倉流など
- 太鼓……金春流・観世流など

囃子は、能には欠かすことができないもので、謡や舞を支えてその曲の雰囲気盛り上げます。能が始まる前、誰もいない舞台に笛の音が響きます。これ

囃子堂

～東京公演～

能楽囃子を音楽として聴く

令和4年12月21日(火) 午後6時開演(開場 午後5時半)

宝生能楽堂

一般社団法人 京都能楽囃子方同盟会
http://www.noh-doumeikai.com

AFF

家臣の横暴と母子の悲嘆をただ哀れとばかり思っていました。ゴツゴツとした謡をしつかり聞き取ることで、三者それぞれの立場と心情が心に刻み込まれるようでした。

「囃子堂」を拝見して、各流派も囃子方も、長い歴史の積み重ねから舞台を作っておられる

は「お調べ」といい、囃子の調子を合わせ、能が始まる緊張感を高めるのです。

謡や仕舞をお稽古している方の中には、これらの楽器を習っている方もあると思います。囃子が身についていると、拍子に合わせてノリよく謡う時や、舞囃子を舞う時などに、テンポや曲の感じがつかみやすいという利点があります。逆に囃子のお稽古をする時にも、謡を経験していると、覚えやすく身につくやすいようです。

能とのめぐり逢い

金剛流 寶金 邦子

私の能楽歴は短い。公務員を定年退職して無聊をかこっていた頃、たまたま知人に連れられて日ノ出町駅近くにある能のお稽古場を訪れ、仕舞や謡のお稽古の様子を見学したが、能と

の出会いである。「やってみたい」直観のようなものが働き、その場で入会を決めた。それが金剛流久良岐会の一員となった最初である。

当初こそ、新しいことを覚えられるか心配したが、熊谷先生の厳しくも優しいご指導、年齢を忘れさせてくれるフランクな仲間たちの存在で、すぐに懸念は消え、皆に交じって楽しくお稽古を続けている。入会してすでに8年を経過したが、今に至るも私が一番の新米だというのが少々悲しい。しかし、下手の言い訳にもなり、内心ホッとしている部分もある。

お稽古に通い始めて1年が経った頃、先生から仕舞と謡の課題として「雪」を与えられた。この曲は金剛流のみにある作品であり、能楽師は宗家の許可がないと舞台で披露することは出来ないなど、格式のある能であると教えられた。初心者の方はただひたすら先生の動きを真似し、覚えるだけで精一杯であったが、それでもなんとか格好をつけ、2014年春の五流のついでで「雪」のクセを、翌年の同ついでではキリを発表させていただいた。足かけ2年に亘って練習した「雪」の仕舞は思い出深い。

2018年7月、三井記念美

能楽堂だより

令和4年4月～9月の公演案内

術館で「金剛宗家の面と能衣装展」を鑑賞した。この展覧会では、金剛流宗家に伝わる「雪の小面」と同美術館所蔵の「花の小面」が共に展示されて話題を呼んでいた。うす暗い館内のちようど真ん中あたりに並んで置かれたケースの中の二つの小面は、評判通り素晴らしかった。説明書がなければ区別がつかなかったが、雪の小面はふくよかでありながら端正で、無垢と表現できるほど清らかであった。家に戻り、しばらくぶりに「雪」の謡本を開いた。面の感動が残っていたせいか、いくつかの詞がストンと心に響いた。

「誰とはいかで 白雪の ただおのづから 現はれたり」「梢にかかるや 雪の花は また消え消えとぞ なりにける」どこからともなく降ってきて、そして土や梢に落ちていつともなく消えていく雪の姿は、人の生とも重なり、世俗の雑事を覆い隠す真っ白な雪に共感と憧れを感じたのかもしれない。

能は、私の生活の一部となった。あの「雪の小面」をつけた雪の精が現れる能「雪」に出会いたいというのが、今の私のひそかな願いである。

令和4年4月から9月までの横浜能楽堂公演
予定は次の通りです。ぜひお運びください。

特別公演「三老女」第1回

4月9日(土) 午後2時開演

狂言「財宝」(和泉流) 野村万作

能「娘捨」(観世流) 梅若 実

S席九千円/A席八千円/B席七千円

▽チケット発売中

特別公演「三老女」第2回

5月7日(土) 午後2時開演

狂言「萩大名」(大蔵流) 山本東次郎

能「檜垣 蘭拍子」(観世流) 大槻文藏

S席九千円/A席八千円/B席七千円

▽チケット発売中

特別公演「三老女」第3回

6月18日(土) 午後2時開演

狂言「富士松」(和泉流) 野村 萬

能「関寺小町」(観世流) 観世鍬之丞

S席九千円/A席八千円/B席七千円

▽チケット発売中

第69回横浜能

6月26日(日) 午後2時開演

狂言「舟渡舞」(和泉流) 野村又三郎

能「田村 替装束」(観世流) 岡本房雄

S席四千五百円/A席四千円/B席三千五百円

▽チケット発売中

普及公演「横浜狂言堂」(こども狂言堂)

7月31日(日) 午後2時開演

狂言「柿山伏」(大蔵流) 山本泰太郎

狂言「神鳴」(大蔵流) 山本則孝

お話 山本東次郎

▽チケット発売中

こども(18歳以下) 五百円 5月7日(土)、

おとな二千二百円 6月11日(土) 発売

普及公演

9月17日(土) 午後2時開演

狂言「伊文字」(大蔵流) 茂山千五郎

能「融 笏之舞」(金春流) 辻井八郎

S席四千五百円/A席四千円/B席三千五百円

▽チケット発売中: 6月11日(土) から

※チケット発売の初日はWEBで正午から。窓口販売は翌日からとなります。

横浜能楽堂 ☎045(263)3055

※毎月第2日曜日には普及公演「横浜狂言堂」を開催。狂言2番を解説付きでお送りします。

全席指定二千二百円

※今後の新型コロナウイルスの感染状況や政府方針によつては、日程・内容等が変更になる場合がございます。最新の情報は、横浜能楽堂ホームページをご確認ください。

◆編集後記◆

昨年終わり頃には、コロナウイルスもようやく峠を越したかと思われましたが、今度はオミクロン株という新しい脅威にさらされることになりました。出口の見えないこの暗闇の中から抜け出すことができるようになるのは、いつのことなのでしょう。大会中止も、またかといふか。言いようがない状態です。

また、異常気象やロシア・ウクライナ紛争など、世界的に不安な状況も起こっています。

高齢者の多い当連盟では、多数の参加者が集まる大会を実施するには、どうしても慎重にならざるを得ません。流派や社中によつては、お稽古もできない状態が長く続いているようです。なんとか10月の五流大会は実施できるようにと祈るのみです。(F・Y)

横浜能楽連盟連絡先

◎事務局 倉藤

TEL

〇四五・八三五・二三六一

◎連盟後援行事

「第36回神奈川県宝生流謡曲大会」4月17日(日) 横浜能楽堂本舞台 / 「第13回横浜喜多会能楽大会」6月11日(土) 久良岐能舞台 / 「第13回よこはま能の会」7月18日(月・祝) / 「横浜金剛会第23回謡と仕舞の集い」8月20日(土) 横浜能楽堂第二舞台 / 「宝生流第35回連合会大会」8月27日(土) 横浜能楽堂本舞台